

かんきつ類情報シート

愛媛県で栽培されているかんきつ類のうち代表的なものや特徴のあるものについて、それぞれ1枚のシートにあらゆる情報をまとめました。

生産者の皆さんには販促時のPR材料として、消費者の皆さんには気になるかんきつ類を調べる際の辞書として、それぞれご活用いただくと幸いです。

(説明) ●は出荷時の果実の果皮の色を表しています。なお、例外的なものとして、枝変わりなどで生まれた新たな系統(オレンジ色の八朔や甘夏、黄色の清見など)や、早期収穫された未完熟の果実(青いレモンや柚など)があります。

<温州みかん>

●ハウスみかん	1頁
●極早生みかん	2頁
●早生温州	3頁
●中生温州	4頁
●普通温州	5頁

<中晩柑類>

●紅まどんな	6頁
●はれひめ	7頁
●不知火(デコポン)	8頁
●ポンカン	9頁
●伊予柑	10頁
●ネーブル	11頁
●八朔	12頁
●天草	13頁
●はるみ	14頁
●媛小春	15頁
●甘平	16頁
●せとか	17頁
●たまみ	18頁
●はるか	19頁
●文旦	20頁
●ひめのつき	21頁
●アンコール	22頁
●清見	23頁
●甘夏	24頁
●カラ・南津海	25頁
●タロッコ	26頁
●日向夏	27頁
●河内晩柑	28頁
●弓削瓢柑	29頁
●レモン	30頁
●ライム	31頁
●柚	32頁
●仏手柑	33頁
●じゃばら	34頁

夏場のみかんは私にお任せ！「ハウスみかん」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	5月中旬から10月上旬まで
特長	中晩柑類が終わる頃から露地栽培の温州みかんが出始める頃まで出荷が続き、果皮、袋ともに薄く、甘味も強くなっています。
備考	施設内の加温開始時期が早いほど出荷時期も早くなります。品種は、ほとんどが「宮川早生」で、一部、「興津早生」、「上野早生」もあります。

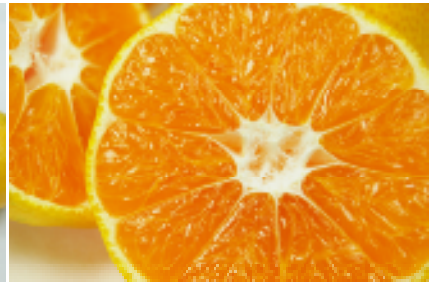
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 3：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 2：やや薄く、袋ごと食べることができます。 3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 2：あります。

3. 来歴

- (1) 「宮川早生」は、在来系温州みかんの枝変わりであり、詳細は「宮川早生」の情報シートを参照下さい。
- (2) 「興津早生」は、1940年に静岡県興津町（現：静岡市）の農林省園芸試験場（現：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構）で、「宮川早生」（♀）と「カラタチ」（♂）の珠心胚実生から生まれました。
- (3) 「上野早生」は、1970年に佐賀県浜玉町（現：唐津市）の上野寿彦氏が「宮川早生」の枝変わりとして発見しました。

愛媛の極早生みかんの代表格！「日南1号」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	10月上旬から10月下旬まで
特長	露地栽培温州みかんのトップバッターとして出荷され、秋の訪れを告げるさわやかな香りと味わいです。
備考	愛媛県内の極早生みかん栽培面積の約6割を占める代表品種です。果肉が早く熟すことから、収穫時期が早いものは果皮に緑色が残ります。極早生みかんには、「日南1号」のほか、「上野早生」、「はつひめ」などがあります。

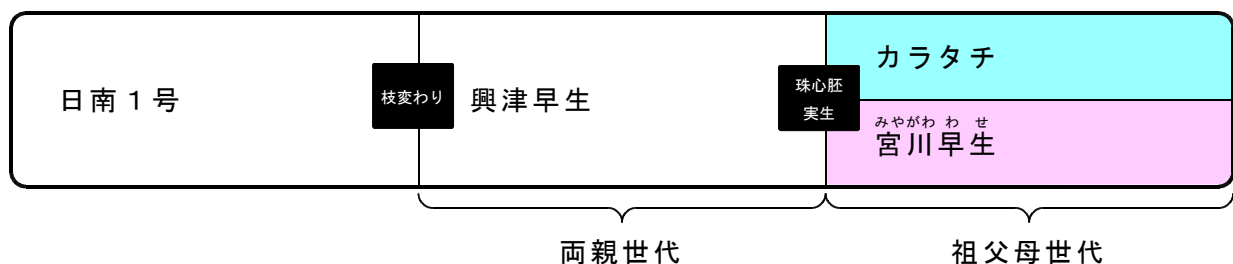
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1979年に宮崎県日南市の野田明夫氏が、「興津早生」の木に着色が早く酸抜けの良い果実が結実している枝を発見し、これが「日南1号」となりました。

3世代系譜図（ は父親（♂）、 は母親（♀））



愛媛の早生温州の代表格！「宮川早生」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	11月上旬から12月下旬まで
特長	極早生みかんに比べ、甘味が増加、酸味が低下し、袋の薄さは温州みかんの中でも一番です。
備考	愛媛県内の早生温州栽培面積の8割弱を占める代表品種です。また、本県露地栽培みかんの全栽培面積の約3割を占める主力品種でもあります。早生温州には、「宮川早生」のほか、「興津早生」、「田口早生」などがあります。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1915年頃に福岡県城内村（現：柳川市）の宮川謙吉氏の宅地内で在来系温州みかんの枝変わりとして発見され、その後、1925年に田中長三郎博士によって「宮川早生」と命名されました。

※祖父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

愛媛の中生温州の代表格！「南柑20号」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	12月上旬から12月下旬まで
特長	早生温州に比べ、コク（味の濃さ）が増しています。
備考	愛媛県内の中生温州栽培面積の7割強を占める代表品種です。また、本県露地栽培みかんの全栽培面積の2割弱を占める、「宮川早生」に次ぐ主力品種でもあります。中生温州には、「南柑20号」のほか、「愛媛中生」、「石地」などがあります。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1924年以来数度にわたり愛媛県南部において村松春太郎氏（後に愛媛県南予柑橘分場の初代分場長に就任）が温州みかんの優良系統探索を行っていたところ、1926年に同県宇和島市の今城辰男氏の園地で発見された系統を優秀であるとして、これを南予柑橘分場にちなみ「南柑20号」と命名しました。

※祖父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

愛媛の普通温州うんしゅうの代表格！「南柑4号」なんかん



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	12月下旬から1月中旬まで
特長	<small>なかにてうんしゅう</small> 中生温州と同様、コク（味の濃さ）の成分が高くなっています。
備考	愛媛県内の普通温州栽培面積の約5割を占める代表品種です。普通温州には、「南柑4号」のほか、「 <small>おおつ</small> 大津4号」、「ひめのか」などがあります。

2. 果実の食べやすさ

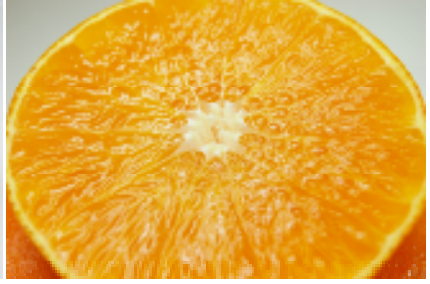
果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1924年以来数度にわたり愛媛県南部において村松春太郎氏（後に愛媛県南予柑橘分場の初代分場長に就任）が温州みかんの優良系統探索を行っていたところ、1926年に同県吉田町（現：宇和島市）の薬師寺惣市氏の園地で発見された系統を優秀であるとして、これを南予柑橘分場にちなみ「南柑4号」と命名しました。

※祖父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

とろけるゼリーの食感！「^{べに}紅まどんな」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	12月上旬から12月下旬まで（12月中旬以降が特に食べ頃です）
特長	果肉が口の中でゼリーのようにとろけ、のどごしもなめらかです。
備考	愛媛県が育成した新品種で、愛媛新柑橘3兄弟のひとつとして愛媛県内でのみ生産されています。“紅まどんな”は全国農業協同組合連合会の登録商標で、品種名は「愛媛果試第28号」です。果皮が薄くてデリケートなため、果実に雨が当たらないよう施設栽培や袋かけをして大切に栽培されます。

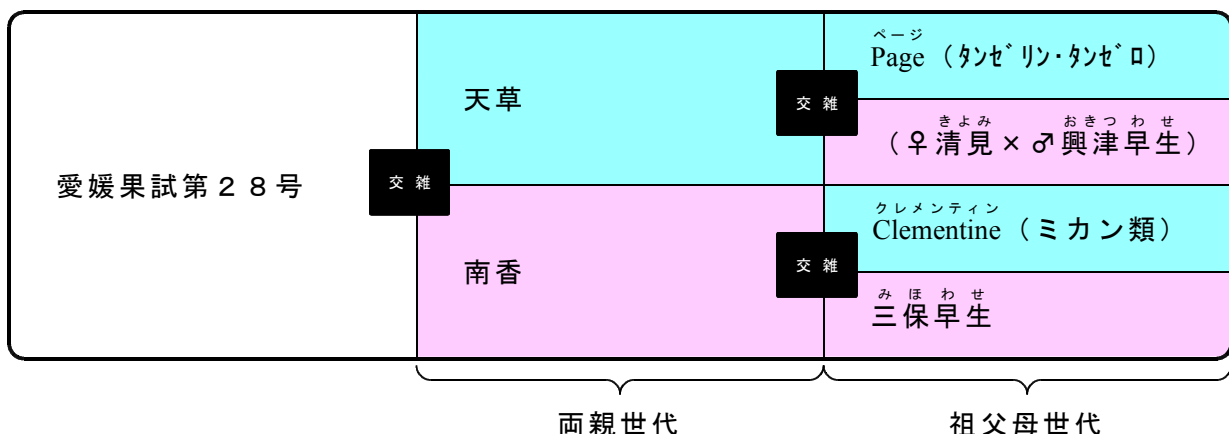
2. 果実の食べやすさ

果皮	1：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります（袋がやわらかいため）。 3：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 2：やや薄く、袋ごと食べることができます。 3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 2：あります。

3. 来歴

愛媛県果樹試験場が育成した、「南香」^{なんこう}（♀）と「天草」^{あまくさ}（♂）の交雑品種であり、2005年3月に種苗法の登録を受けました。

3世代系譜図（は父親（♂）、は母親（♀）、英字表記は外国産）



オレンジと温州みかんが合体進化！「はれひめ」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	12月上旬から1月下旬まで
特長	オレンジ系の爽やかな香りは母親から、食べやすさは父親から、それぞれいいところ取りで受け継ぎました。
備考	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した新品種で、秋晴れの日が多く、雨量の少ない年ほど美味しさが増します。愛媛県は、日本一の「はれひめ」の産地となっており（平成20年産）、JA越智今治では、指定園地で生産された高品質のはれひめを“瀬戸の晴れ姫”というブランド商品として販売しています。

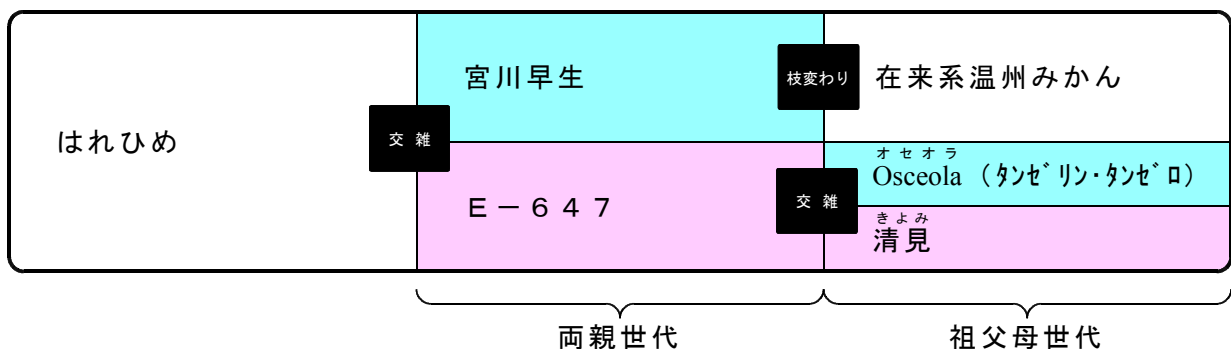
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した、中間母本^{（注）}の「E-647」
（♀）と「宮川早生」^{（♂）}の交雑品種であり、2004年6月に種苗法の登録を受けました。
〔（注）中間母本とは、優れた形質を持ちつつも欠点があることから生産者の栽培に適さないとされた系統であって、育種の用に供されるもの〕

3世代系譜図（は父親（♂）、は母親（♀）、英字表記は外国産）



個性的外観で、一目でわかる！「不知火（テコポン）」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	12月上旬から5月上旬まで（2月まではハウス栽培中心、3月からは施設栽培中心、4月からの完熟物はハウス栽培もあり）
特長	食味が良く、食べやすい、個性的な外観の柑橘です。春の完熟不知火は、甘味が増す一方、酸味が下がり、食味が一層良くなります。
備考	施設での促進栽培から露地での完熟栽培まで、最も出荷期間が長い柑橘のひとつです。“テコポン”は熊本県果実農業協同組合連合会の登録商標で、品種名は「不知火」です。愛媛県は、熊本県に次ぐ「不知火」の産地です（平成20年産）。

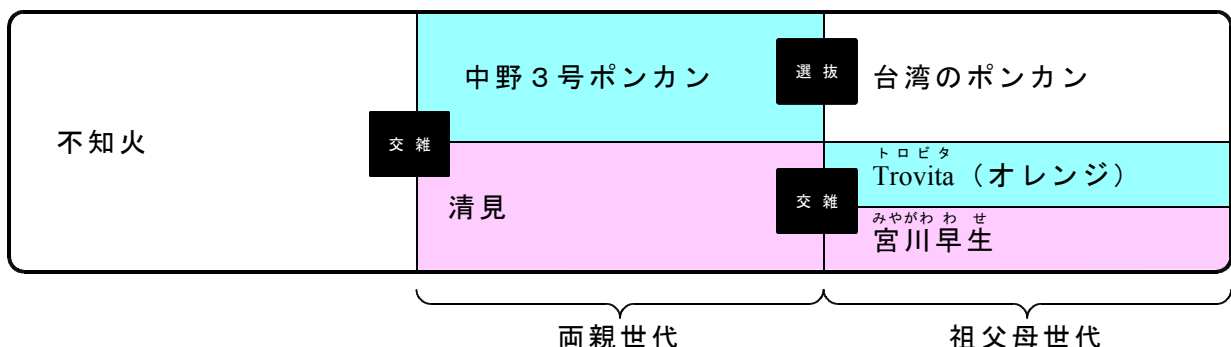
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

農林水産省果樹試験場（現：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構）が育成した、「清見」（♀）と「中野3号ポンカン」（♂）の交雑品種です。交配された時期は1972年ですが、外見上の弱点から、その後、品種登録は行われませんでした。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



おやつに最適、甘さ引き立つお手軽柑橘！「ポンカン」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月上旬から3月上旬まで
特長	コンパクトな大きさ、皮のむきやすさ、価格の手ごろさの3拍子そろった、おやつに最適の手軽な柑橘です。酸味が弱く甘味が強いので、子供にも人気です。
備考	ポンカンには、1月に出荷が始まる「太田 ^{おおた} ポンカン」、2月に出荷が始まる「今津 ^{いまづ} ポンカン」などがあります。愛媛県は日本一のポンカンの産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

- (1) 「太田^{おおた}ポンカン」は、1947年に静岡県清水市（現：静岡市）の太田敏雄氏の園地で発見された「庵原^{いはら}ポンカン」の枝変わり品種です。
- (2) 「今津^{いまづ}ポンカン」は、1951年に愛媛県吉田町（現：宇和島市）の今津伊勢夫氏が、高知県土佐市の市原覚氏より譲り受けた穂木を育成した品種です。

中晩柑類で生産量第1位、香りと味わいが自慢！「伊予柑」^{いよかん}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月上旬から3月下旬まで（2月上旬以降が特に食べ頃です）
特長	爽やかな香りとジューシーな味わいで、体がビタミンCと水分を求めのお風呂あがりやスポーツ後に一層美味しく召し上がれます。
備考	伊予柑には、最初に山口県で実生 ^{みしろう} として発見された「普通伊予柑」 ^{ふつういよかん} 、愛媛県で枝変わりによる進化を遂げた「宮内伊予柑」 ^{みやうちいよかん} 、「大谷伊予柑」 ^{おおたにいよかん} 、「勝山伊予柑」 ^{かつやまいよかん} などの品種があり、愛媛県の伊予柑はほとんどが「宮内伊予柑」です。愛媛県は日本一の伊予柑の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

- （1）「普通伊予柑」は、1886年に山口県東分村（現：萩市）の中村正路氏の園地で発見された偶発実生です。
- （2）「宮内伊予柑」は、1955年に愛媛県松山市の宮内義正氏の園地で発見された「普通伊予柑」の枝変わり品種です。
- （3）「大谷伊予柑」は、1972年に愛媛県吉田町（現：宇和島市）の大谷政幸氏の園地で発見された「宮内伊予柑」の枝変わり品種です。
- （4）「勝山伊予柑」は、1976年に愛媛県松山市の樋口光雄氏の園地で発見された「宮内伊予柑」の枝変わり品種です。

密度の高い果肉に甘味がいっぱい！「ネーブル」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月中旬から4月中旬まで
特長	果実の中にもう一つ小型の果実が生成され、その一部が顔を出しヘソ（英語：navel）となります。ぎっしり詰まった果肉には濃厚な甘味があふれます。
備考	ネーブルには、 ^{わせ} 早生品種の「 ^{おおしま} 大三島ネーブル」、 ^{せいけ} 「清家ネーブル」、 ^{しらやなぎ} 「 ^{おくて} 白柳 ^{もりた} ネーブル」、 ^{もりた} 晩生品種の「森田ネーブル」などがあります。愛媛県は、広島県、和歌山県、静岡県に次ぐネーブルの産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

- (1) 「大三島ネーブル」は、1952年に愛媛県大三島町（現：今治市）の藤原義衛氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。
- (2) 「清家ネーブル」は、1958年に愛媛県吉田町（現：宇和島市）の清家清太郎氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。
- (3) 「白柳ネーブル」は、1932年に静岡県細江町（現：浜松市）の加茂吾郎氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。
- (4) 「森田ネーブル」は、1948年に静岡県三ヶ日町（現：浜松市）の森田要氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。

爽やかさとほのかな苦みの絶妙ハーモニー！「八朔」^{はっさく}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月中旬から4月下旬まで（3月上旬以降が特に食べ頃です）
特長	爽やかな味わいとほのかな苦みの絶妙ハーモニーは、長年、多くのファンに愛されています。4月まで木の上で完熟させた「八朔」は特に糖度が増します。
備考	愛媛県は、和歌山県、広島県に次ぐ「八朔」の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	1：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 <u>③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。</u>
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 2：やや薄く、袋ごと食べることができます。 <u>③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。</u>
種	1：ありません（まれに少量あることもあります）。 <u>②：あります。</u>

3. 来歴

1860年に現在の広島県因島の恵日山浄土寺の境内に偶発実生^{ぐうはつみしよう}として発生した品種です。
※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

内外ともに洗練された美人柑橘！「天草」^{あまくさ}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月下旬から2月中旬まで
特長	外観は紅色が鮮やか、果肉は芳醇な果汁があふれ、まろやかな味わいの美人かんきつです。
備考	愛媛県は日本一の「天草」の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

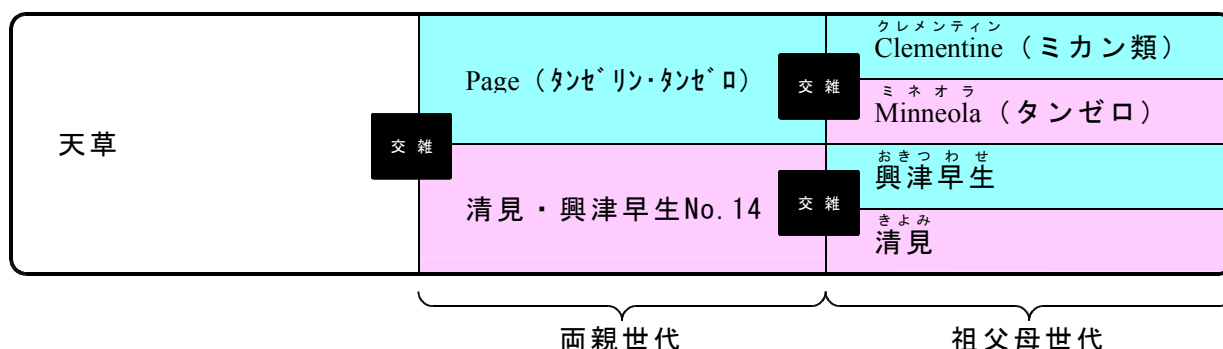
果皮	1：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 2：あります。

3. 来歴

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した、中間母本^{ちゆうかんぼほん}（注）の「清見・興津^{きよみおきつ}早生^{わせ}No.14」（♀）と米国生まれのタンゼリン・タンゼロ「Page」^{ページ}（♂）の交雑品種であり、1995年8月に種苗法の登録を受けました。

（注）中間母本とは、優れた形質を持ちつつも欠点があることから生産者の栽培に適さないとされた系統であって、育種の用に供されるもの

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



弾けるぷちぷち食感がたまらない！「はるみ」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	2月上旬から3月上旬まで（2月中旬以降が特に食べ頃です）
特長	果肉を構成するひとつひとつの粒に張りがあり、口に含むと弾けるような食感があります。
備考	「 ^{しらぬひ} 不知火」と同様、「 ^{きよみ} 清見」と「ポンカン」の交配で育成されました。愛媛県は、日本一の「はるみ」の産地です（平成20年産）。

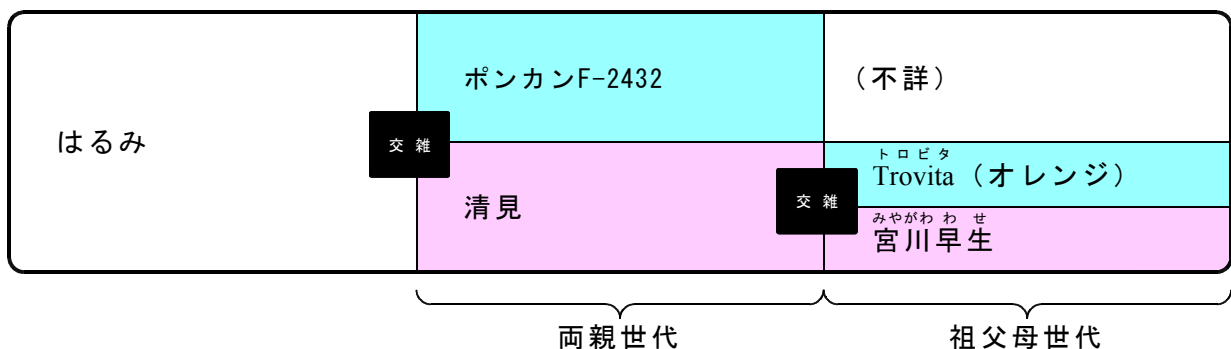
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります（まれにないこともあります）。

3. 来歴

農林水産省果樹試験場（現：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構）が育成した、「清見」（♀）と「ポンカンF-2432」（♂）の交雑品種であり、1999年11月に種苗法の登録を受けました。

3世代系譜図（は父親（♂）、は母親（♀）、英語表記は外国産）



幻の「おうごんかん黄金柑」を凌ぐ衝撃の柑橘！「ひめこはる媛小春」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月下旬から2月下旬まで
特長	最も食味が優れた黄色系柑橘のひとつである幻の父「黄金柑」の美味しさをそのままに、みかんのような食べやすさを兼ね備えた新しいタイプの柑橘です。
備考	愛媛県が育成した最も新しい品種で、愛媛新柑橘3兄弟のひとつとして愛媛県内でのみ生産されています。生産量はまだごくわずかで、本格生産はこれからです。早春を告げる愛らしい黄金色の柑橘です。

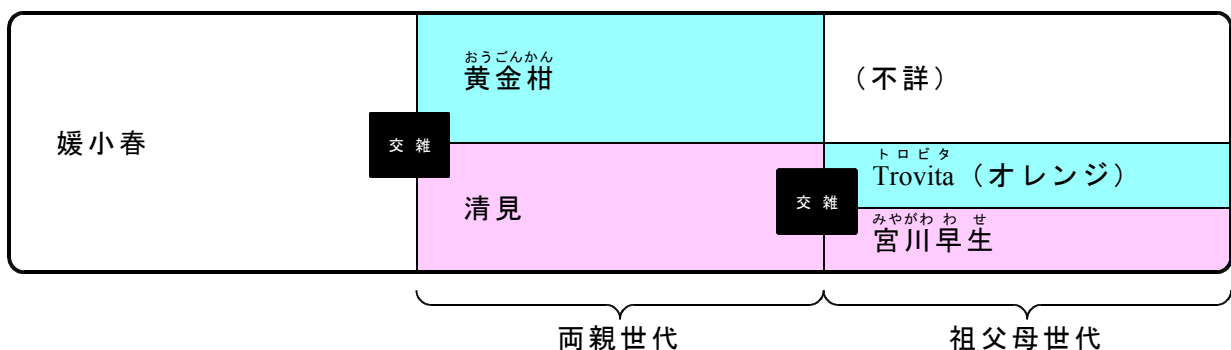
2. 果実の食べやすさ

外皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

愛媛県が育成した、「きよみ清見」（♀）と「黄金柑」（♂）の交雑品種であり、2008年10月に種苗法の登録を受けました。

3世代系譜図（は父親（♂）、は母親（♀）、英語表記は外国産）



新しいえひめのかんきつの顔！「甘平」^{かんぺい}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	2月上旬から3月中旬まで
特長	薄い袋と爽やかな香りは母親から、果肉の歯ごたえと強い甘みは父親からそれぞれ受け継ぎ、かんきつ王国えひめの顔にふさわしい食味を誇っています。
備考	愛媛県が育成した新品種で、愛媛新柑橘3兄弟のひとつとして愛媛県内でのみ生産されています。自慢の甘味と平たい形から「甘平」と命名されました。果皮がとても薄いため、生育中に裂果が発生しやすく、細やかなかん水など丹精込めた栽培管理が行われています。

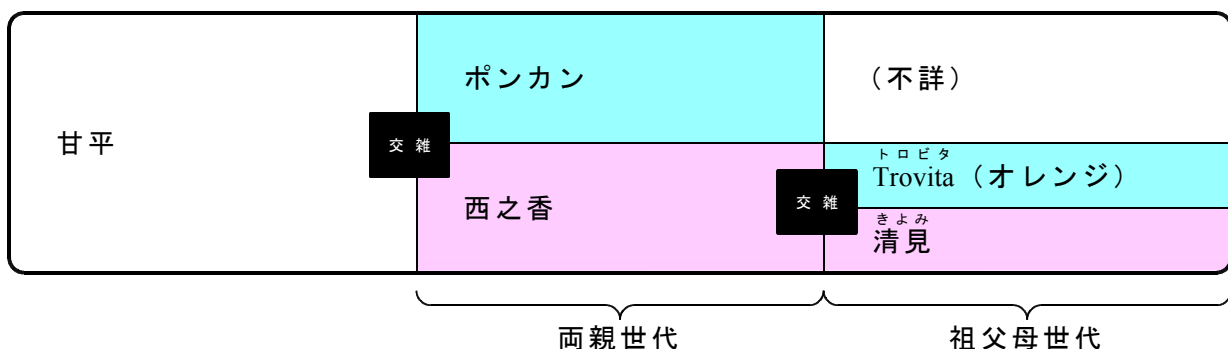
2. 食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

愛媛県が育成した、「西之香」^{にしのかおり}（♀）と「ポンカン」（♂）の交雑品種であり、2007年8月に種苗法の登録を受けました。

3世代系譜図（は父親（♂）、は母親（♀）、英字表記は外国産）



香り、色、味わい、すべてが濃厚！「せとか」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月下旬から3月下旬まで（2月まではハウス栽培、3月からは露地栽培）
特長	「清見」に、高糖度系品種の「アンコール」、「マーコット」が重ねて交配されたことで、香り、色、味わい、すべてがギュッと濃縮されています。
備考	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した新品種で、愛媛県は日本一の「せとか」の産地です（平成20年産）。大きくつややかな外観の施設栽培せとかは2月上旬から、やや小玉ですがコクが深い露地栽培せとかは3月上旬から、それぞれ出荷されます。

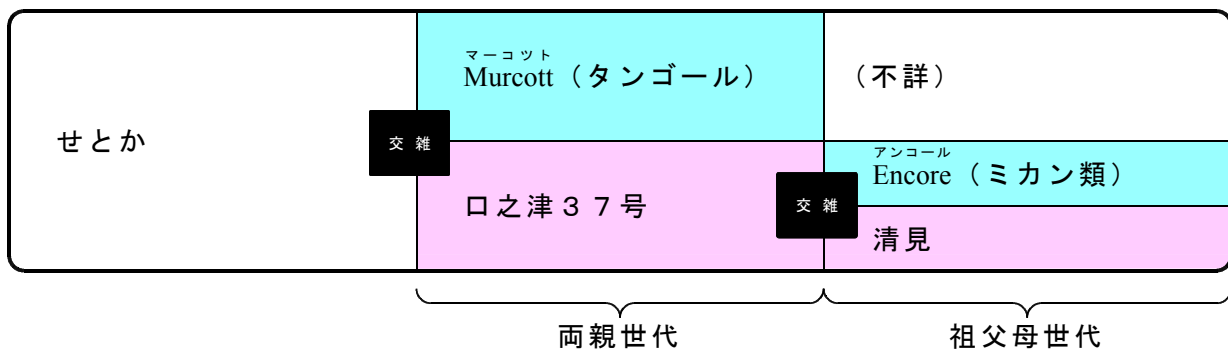
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

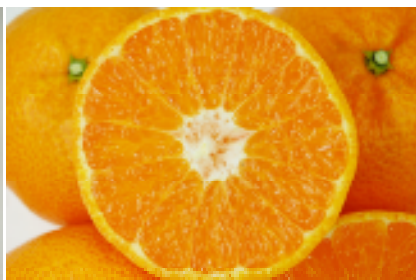
3. 来歴

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した、口之津37号（♀）とタンゴール「マーコット」（♂）の交雑品種であり、2001年10月に種苗法の登録を受けました。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



βクリプトキサンチンがいっぱい！「たまみ」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	2月上旬から3月中旬まで
特長	オレンジ系のスッキリとした味わいで、果肉には発がん抑制などの機能性が注目されているβ-クリプトキサンチンの含有量が高いとされています。
備考	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した新品種です。愛媛県では上島町で生産が行われており、同町産の「たまみ」は“しまひめ”という愛称で販売が行われています。

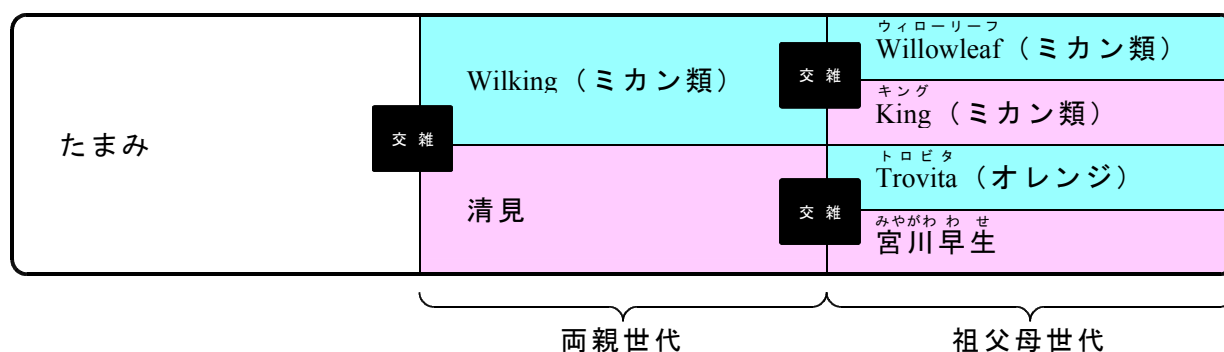
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した、「清見」^{きよみ}（♀）と米国生まれのミカン類「Wilking」^{ウィルキング}（♂）の交雑品種であり、2006年12月に種苗法の登録を受けました。

3世代系譜図（は父親（♂）、は母親（♀）、英語表記は外国産）



見た目と味のギャップを感じて！「はるか」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	2月中旬から3月下旬まで
特長	黄色い外観から想像しがちな酸味はほとんど感じられず、その一方でまろやかな甘味があり、見た目と味のギャップを最も感じる柑橘のひとつです。
備考	「不知火」は頭の部分に突起ができますが、はるかはお尻の部分に丸いくぼみ（凹環）ができます。愛媛県は日本一の「はるか」の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	1：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 2：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	1：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1980年頃に福岡県二丈町（現：糸島市）の石井徳雄氏が自宅の庭に捨てた「日向夏」種子から発生した偶発実生であり、1996年10月に種苗法の登録を受けました。

※祖父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

大玉の透き通る爽やかさ！「^{ぶんたん}文旦」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	2月中旬から4月下旬まで
特長	みずみずしく透き通る爽やかな風味があります。
備考	^{ぶんたん} 文旦には、「 ^{と き ぶんたん} 土佐文旦」のほか、施設内で栽培される果汁の多い「 ^{すいしょうぶんたん} 水晶文旦」などの品種があります。愛媛産の「土佐文旦」は、「 ^{うわ ぶんたん} 宇和文旦」という商品名で販売されるものもあります。愛媛県は、高知県、鹿児島県に次ぐ文旦の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	1：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 <u>③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。</u>
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 2：やや薄く、袋ごと食べることができます。 <u>③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。</u>
種	1：ありません（まれに少量あることもあります）。 <u>②：あります。</u>

3. 来歴

- (1) 「土佐文旦」は、鹿児島県在来の品種で、1929年に高知県農事試験場園芸部長の渡辺恒男氏が鹿児島県から導入したといわれています。
- (2) 「水晶文旦」は、1952年頃に高知県室戸市の民間育種家の戸梶清氏によって育成された品種です（戸梶清氏の手記によれば、ポンカンの成木に土佐文旦の胚芽接ぎをして生まれたものとありますが、土佐文旦と何かの雑種という説もあり、はっきりしていません）。

爽やか系品種と高糖度系品種のハーフ！「ひめのつき」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	3月上旬から3月下旬まで
特長	黄色い外観から想像しがちな酸味はほとんどなく、爽やか系品種と高糖度系品種のハーフとして、スッキリとした甘味があります。
備考	全国農業協同組合連合会の愛媛県にある試験圃場で育成され、愛媛県内でのみ生産されています。

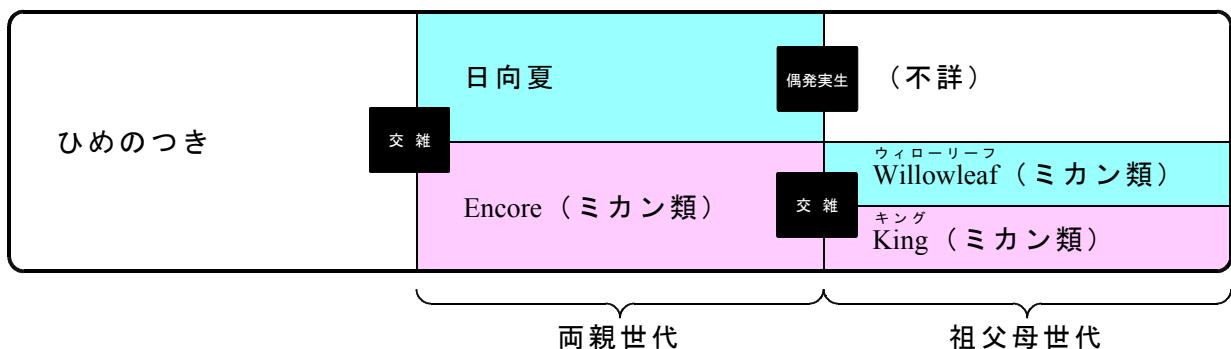
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 3：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	1：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

全国農業協同組合連合会が育成した、米国生まれのミカン類「Encore^{アンコール}」（♀）と「日向夏^{ひゅうがなつ}」（♂）の交雑品種であり、2006年7月に種苗法の登録を受けました。

3世代系譜図（は父親（♂）、は母親（♀）、英語表記は外国産）



個性的な高糖度系品種！「アンコール」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	2月下旬から4月下旬まで
特長	赤橙色の果皮は色鮮やかで、この品種特有の個性的な香りと味わいには根強いファンがいます。
備考	愛媛県は日本一の「アンコール」の産地です（平成20年産）。露地栽培には適さないため、すべて施設で栽培されています。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 3：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 2：やや薄く、袋ごと食べることができます。 3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	1：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1954年に米国カリフォルニア大学のフロスト博士が育成した、米国生まれのミカン類「King」^{キング}（♀）と中国南部生まれのミカン類「Willowleaf」^{ウィローリーフ}（別名：地中海マンダリン）（♂）の交雑品種です。日本には1970年に伝来し、愛媛県には1974年に導入されました。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



じっくり時間をかけて蓄えられた香りと果汁！「清見」^{きよみ}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	3月上旬から5月下旬まで
特長	開花から収穫までの期間が長く、じっくり時間をかけて、オレンジ系の香りとあふれる果汁が果肉に蓄えられます。
備考	日本で初めて育成されたタンゴール（温州みかん（ ^{タンジェリン} Tangerine）とオレンジ系（ ^{オレンジ} Orange）との交雑品種の総称）で、“清見タンゴール”という名称で表記されることもあります。愛媛県は日本一の「清見」の産地です（平成20年産）。

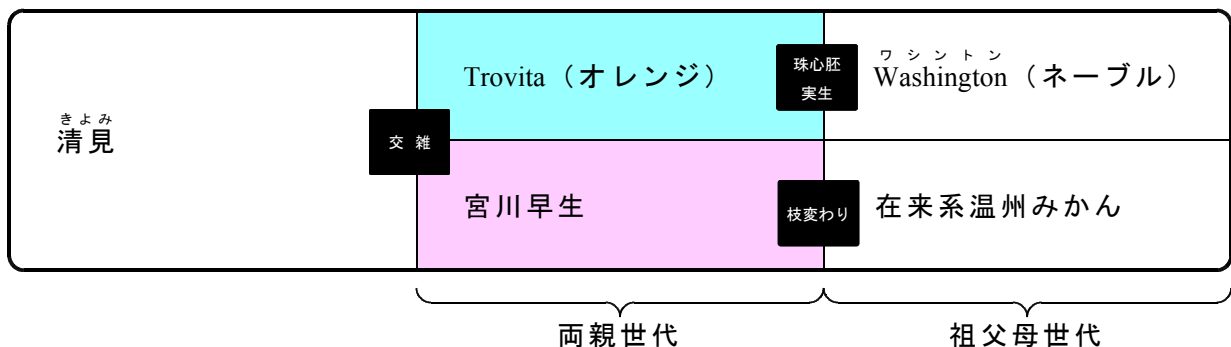
2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります（果肉がやわらかいため）。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

農林水産省果樹試験場（現：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構）が育成した、「^{みやがわ}宮川早生」（♀）と米国生まれのオレンジ「^{トロビタ}Trovita」（♂）の交雑品種です。交配された時期は1949年で、その後、栽培試験が行われ、1979年に農林水産省の認定品種となりました。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



初夏を告げる昔ながらの懐かしい味わい！「甘夏」^{あまなつ}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	3月上旬から6月中旬まで
特長	爽やかな味わいと歯ごたえのある果肉で、サイズも大きく食べ応えも十分です。昔ながらの酸味の強い品種ですが、初夏を告げる昔ながらの懐かしい柑橘としてオールドファンも少なくありません。
備考	甘夏には、 ^{かわの なつだいだい} 「川野夏 橙」、 ^{しんあまなつ} 「新甘夏」などの品種があり、特に「新甘夏」については“サンフルーツ”や“ニューセブン”などの商品名で販売されることがあります。愛媛県は熊本県に次ぐ甘夏の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	1：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③： <u>手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。</u>
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 2：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③： <u>厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。</u>
種	1：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②： <u>あります。</u>

3. 来歴

- 「川野夏橙」(いわゆる甘夏)は、1935年頃に大分県津久見市の川野豊氏の園地で発見された^{なつだいだい}「夏 橙」(いわゆる夏みかん)の枝変わり品種です。
- 「新甘夏」は、1962年に熊本県田浦町(現：芦北町)の山崎寅次氏の園地で発見された「川野夏橙」の枝変わり品種です。

味わい濃厚な春みかん！「カラ」・「南津海」



1. 果実の出荷時期と特長（カラ・南津海共通）

出荷時期	4月中旬から5月下旬まで
特長	大きさや形は温州みかんに似ていますが、寒い冬の間に養分がしっかりと蓄えられ、味わいは濃厚です。
備考	「カラ」は「カラマンダリン」と称されることがあります。「カラ」と「南津海」は外観と味にほとんど違いはありません。「カラ」と「南津海」の合計でみると、愛媛県は日本一の産地です（平成20年産）。

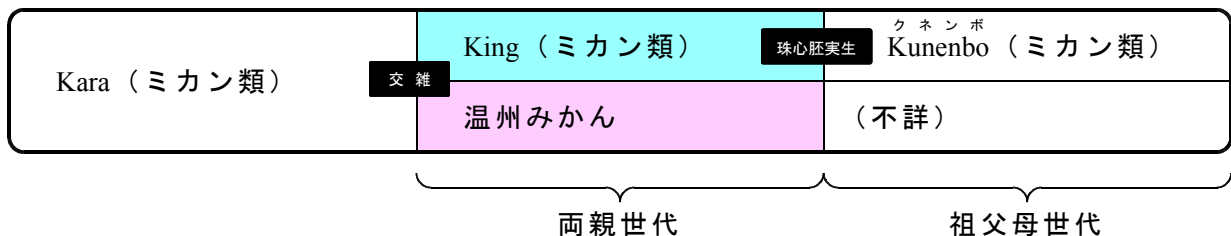
2. 果実の食べやすさ（カラ・南津海共通）

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

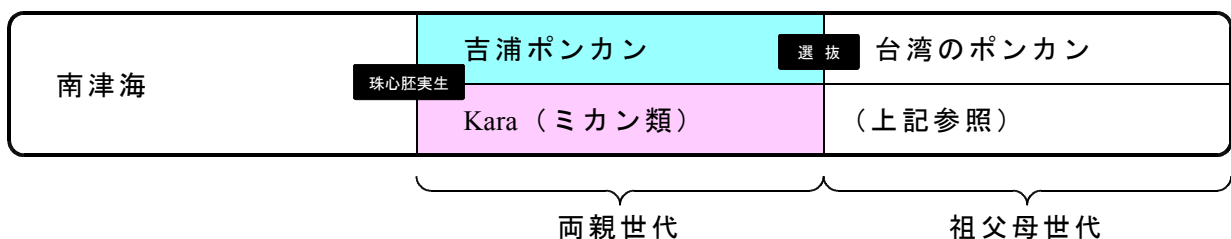
(1) 「カラ」は、1915年に米国カリフォルニア大学のフロスト博士が育成した、温州みかん（♀）と米国生まれのミカン類「King」（♂）の交雑品種です。日本には1955年に伝来しました。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



(2) 「南津海」は、1978年に山口県の山本弘三氏が交配した「カラ」（♀）と「吉浦ポンカン」（♂）の珠心胚実生から生まれました。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



イタリア原産、真っ赤なオレンジ！「タロッコ」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	3月下旬から6月上旬まで
特長	イタリアからやってきた、アントシアニンによる鮮やかな赤い果肉が注目の柑橘です。オレンジ色の果皮の柑橘とは、まったく異なる香りと味わいです。
備考	愛媛県は日本初にして日本一の「タロッコ」の産地です（平成20年産）。果肉が赤く染まるブラッドオレンジには、「タロッコ」のほか、「モロ」、「サンギネロ」などの品種があります。欧州ではイタリアを中心に生産が行われており、日本には主にジュースとして輸入されています。

2. 果実の食べやすさ

果皮	1：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 <u>③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。</u>
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 <u>②：やや薄く、袋ごと食べることができます。</u> 3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	<u>①：ありません（まれに少量あることもあります）。</u> 2：あります。

3. 来歴

「Tarocco」は、20世紀初頭にイタリアでブラッドオレンジの品種「Sanguinello Moscato」から発生したといわれています。日本への伝来時期は不明ですが、愛媛県には1973年に導入されました。

※祖父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

清涼感あふれる初夏の味！「日向夏」^{ひゅうがなつ}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	4月中旬から5月下旬まで
特長	ふかふかでほんのり甘味のある果皮内側の白い部分と、爽やかな風味の果肉を一緒に食べることで、清涼感あふれる味わいになります。
備考	愛媛県は、宮崎県、高知県、静岡県に次ぐ「日向夏」の産地です（平成20年産）。愛媛県と静岡県では“ニューサマーオレンジ”、高知県では“小夏” ^{こなつ} と呼ばれています。

2. 果実の食べやすさ

果皮	<p>1：手で簡単にむけます。</p> <p>2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。</p> <p>③：ナイフでリンゴのように果皮の外側（黄色い部分）をむいて下さい。</p>
袋	<p>1：薄く、食べてもほとんど気になりません。</p> <p>②：やや薄く、袋ごと食べることができます。</p> <p>3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。</p>
種	<p>1：ありません（まれに少量あることもあります）。</p> <p>②：ありません（種ができない系統もあります）。</p>

3. 来歴

1820年頃に現在の宮崎県宮崎市の真方安太郎氏の宅地内に偶発実生^{ぐうはつみしよう}として発生した品種です。

※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

よく似たグレープフルーツより美味しい！「河内晩柑」^{かわちばんかん}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	3月下旬から7月中旬まで
特長	外観はグレープフルーツに似ていますが、苦みは少なく、ほんのり甘い爽やかな味わいです。
備考	愛媛県は日本一の「河内晩柑」の産地です（平成20年産）。多くの呼び名を持ち、愛媛県内でも産地によって、“美生柑” ^{みしようかん} 、“愛南ゴールド” ^{あいなん} 、“宇和ゴールド” ^{うわ} 、“ナダオレンジ”などの商品名で販売されています。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1920年頃に熊本県河内町（現：熊本市）の西村徳三郎氏の宅地に発生した文旦^{ぶんたん}の血を引く偶発実生で、1935年に同町の鏞一馬氏が発見しました。

※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

ひょうたんのような縦長柑橘！「ゆげひょうかん弓削瓢柑」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	6月上旬から7月中旬まで
特長	甘味、酸味とも控えめの、うっすら苦味のある淡泊でスッキリした味わいです。 <small>ひょうたん</small> 瓢箪に負けじと縦にどんどん成長しますが、くびれはありません。
備考	産地化されておらず、愛媛県のほか広島県など一部の県において個々の生産者単位で栽培されています。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 2：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 3：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	1：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 3：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	1：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

ふんたん文旦の血を受けた自然雑種との説がありますが、詳細はわかりません。

※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

最も親しまれている香酸柑橘！「レモン」



1. 果実の出荷時期と利用方法

出荷時期	9月上旬から6月上旬まで
利用方法	爽やかで強い酸味があり、果汁は料理の薬味のほか、レモンサワーやはちみつレモンにも利用されます。
備考	<p>レモンは収穫時期によって色が異なり、9月から12月までに出荷されるものは爽やかな香りと酸味の強い緑色のレモン、1月から6月までに出荷されるものは果汁があふれる黄色のレモンとなります。熟度が重視される一般の柑橘とは異なり、用途や好みによって緑色と黄色が使い分けられます。</p> <p>レモンには、果頂部の突起が大きな「リスボン」や突起が小さな「ユーレカ」などの品種があり、さらに「リスボン」には「フロストリスボン」、「プライオアリスボン」など、「ユーレカ」には「アレンユーレカ」、「クックユーレカ」などの選抜系統があります。愛媛県のレモンは、トゲが少なく栽培が容易な「ユーレカ」がほとんどです。愛媛県は、広島県に次ぐ「レモン」の産地です（平成20年産）。</p>

2. 来歴

- (1) 「リスボン」は、1900年代初頭にアメリカで選抜された品種で、日本へは明治末期（明治最終年＝1912年）に渡ったという説がありますが詳細は定かではありません。
- (2) 「ユーレカ」は、1800年代にアメリカで選抜された品種で、日本に渡った時期は定かではありませんが、1914年頃には静岡県にあった農水省果樹試験場で植栽されていたという記録があります。

独特の爽やかな香りの香酸柑橘！「ライム」



1. 果実の出荷時期と利用方法

出荷時期	10月上旬から11月下旬まで ※秋に低い気温が続く年には、果皮が黄色に色づく時期が早まるため、11月下旬の前に出荷が終了する場合があります。
利用方法	果皮は薄く、種はなく、豊富な果汁には独特の爽やかな香りとレモンのような酸味があり、ライムサワーやジントニックに利用されるほか、タイ料理の香り付けとして添えられることもあります。
備考	収穫が遅れると果皮は緑色から黄色に変わりますが、ライム＝緑色のイメージが定着していることから、黄色に色づく前の11月中旬頃までに収穫が終了されます。 ライムには、黄緑色で大玉の「タヒチライム」や濃緑色で小玉の「メキシカンライム」などがあり、愛媛県のライムのほとんどは「タヒチライム」です。愛媛県は日本一のライムの産地です（平成20年産）。

2. 来歴

「タヒチライム」、「メキシカンライム」とともに、日本への伝来時期は定かではありません。
※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

最も生産量の多い香酸柑橘！「^{こうさんかんきつ}柚^{ゆず}」



1. 果実の出荷時期と利用方法

出荷時期	10月下旬から12月中旬まで ※果皮が黄色になる前の柚は青柚と呼ばれ、全出荷量に対する割合はごくわずかですが10月中旬以前に出荷されます。
利用方法	熟した状態でも酸味が非常に強く、果汁は調味料や飲料などの原料に、果皮は料理の薬味に、それぞれ利用されます。また、冬至の日には、柚湯としてお風呂に浮かべて利用されることもあります。
備考	愛媛県は、高知県、徳島県に次ぐ「柚」の産地です（平成20年産）。また、徳島県で生産が盛んな「スダチ」、大分県で生産が盛んな「カボス」は、いずれも「柚」の近縁品種といわれています。

2. 来歴

中国の揚子江上流地域の原産といわれ、日本には唐の時代（7世紀）に朝鮮半島を経由して渡来したと考えられています。奈良時代（8世紀）には、薬用や食酢としての利用を目的に栽培されていたことが記録に残っています。

※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

減多にお目にかかれない観賞用柑橘！「ぶつしゆかん 仏手柑」



1. 果実の出荷時期と利用方法

出荷時期	12月中旬
利用方法	内部は白いコルク状で果肉はなく、生け花など観賞用として利用されるほか、砂糖やはちみつに漬けて菓子として茶席で出されることもあります。
備考	先が指のように分かれていることから、仏の手のひらに見立てて「仏手柑」と名付けられました。産地化されておらず、西日本の柑橘生産県を中心に個々の生産者単位で栽培されています。高知県で栽培されている緑色で球状の仏手柑 <small>まるぶつしゆかん</small> （丸仏手柑）は別の品種です。

2. 来歴

インドの原産で、江戸時代前半に日本に伝来したといわれています。

※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略

機能性が注目される香酸柑橘！「じゃぼら」



1. 果実の出荷時期と利用方法

出荷時期	12月中旬から2月下旬まで
利用方法	熟した状態でも酸味が非常に強く、果汁は鍋や焼き魚の薬味のほか、水と蜂蜜を加えてじゃぼらジュース、アルコールを割ってじゃぼらカクテルとしても利用できます。
備考	2003年11月に、和歌山県工業技術センターによって、じゃぼら果汁に脱顆粒（花粉などを原因としたアレルギー反応）の抑制作用があるとの研究結果が発表されました。その後、2008年9月には、岐阜大学医学部によって、じゃぼら果汁の飲用はスギ花粉症患者の症状改善や生活の質の改善にきわめて有効であるとの研究結果が発表されました。

2. 来歴

和歌山県北山村の福田国三氏の庭先に古くから植えられていた柚の近縁品種で、福田氏により1979年11月に品種登録されました（その後、北山村の特産品として同村内で生産が行われてきましたが、1991年の品種登録の有効期限終了後には苗木の販売が行われるようになり、現在では、愛媛県でも生産が行われています）。

※父母世代不明のため、3世代系譜図は省略